

だ い あ ぐ

東京彩人記

漫画の主人公「伊達直人」などを名乗り贈り物を届ける「タイガーマスク運動」が広がり、児童養護施設が改めて注目を集めた。善意の贈り物以外にも、支援の形はさまざまある。「施設から社会への巣立ち」に着目し、子どもたちの自立を支援するNPO法人「ブリッジフォースマイル」(事務局・千代田区)。子育ても仕事もしながら同法人の設立に奔走し、支援を続けてきた林恵子理事長(37)に、活動にかける思いや支援内容などを聞いた。

——児童養護施設を知るきっかけは？

児童養護施設という言葉集にほとんど触れることなく大学を出て、働いていました。転機は03年の冬です。MBA(経営学修士)を取るために参加した研修で「企業が施設に対して行う支援プログラムを考える」という課題が出て、東京や神奈川、千葉の施設を訪ねて初めて

実情を知ったんです。たくさん衝撃がありました。ここに居たくないと思うほど古い建物がある一方、ピカピカの建物もある。運営がうまくいっている所とそうでない所、都心と地方の差も気付きました。施設を出た子の金銭トラブルに巻き込まれた職員の話など、疲弊している職員が少なくないことも知りました。

児童養護施設からの「巣立ち」を支援するNPO理事長 林 恵子さん(37)



はやし・けいこ 1973年生まれ。大学卒業後、96年に人材派遣会社「パソナ」に入社し、副社長秘書、営業、契約管理、人事などを担当した。04年12月、NPO「ブリッジフォースマイル」を創設し、05年6月に法人化。NPO活動をするにあたり退社したが、活動趣旨に賛同した同社から本社ビル内に場所の提供を受け、事務局を開設。小学4年生と2年生の2児の母。

気兼ねなく頼って

仕事に子育てにと、家庭もバタバタでしたが「知った以上何かやらなきゃ」という使命感にかられた感じから、社会人だからこそで

え出す中高生らにサポートが大切なことや法律の知識を伝えるセミナーをしています。職業体験や退所後に孤立しないようなネットワ

なぜNPOを設立した。驚くほどガラッと人気が変わりました。大人の都合で施設にやってくる子どもたちは施設を選べない。どんな子たちも笑顔で夢を持って生活できる環境を作るのは社会全体の責任だと考えたんです。——具体的な活動例は？ 困っている時に気軽に相談してくれることです。私たちがいなくても十分大丈夫という状態がベストですが、何かあった時に信用して頼ってくれることがうれしいです。一人で悩みを抱え込まないでほしい。気兼ねなく頼ってもらいたいです。

記者の一言

林さんは、しとやかな雰囲気でありながら、即断即決即実行の情熱を秘めた方だった。人生の先輩として子どもたちをサポートし、「甘えてもらう」とは違う。頼られる存在でありたい」と話す林さん。支援する側、される側といった意識を取り払い、対等に子どもたちと向き合う姿に、優しさと強さを感じた。